2021 年 8 月 30 日

文京区教育長　加藤　裕一　様

学校の夏休み明けにあたっての緊急提案

日 本 共 産 党 文 京 区 議 会 議 員 団
日本共産党都議会議員　福手ゆう子
党文京地区青年学生部長　石沢のりゆき

夏季休暇中も含めて新型コロナ感染症対応に尽力されていることに、心より敬意を表します。

これまでの新型コロナウイルスとレベルの違うデルタ株は、子どもの感染をめぐる状況も大きく変えました。

これまで感染しにくいとされてきた子どもへの感染が顕著に増えていること、またこれまで感染は“大人から子どもに伝播する”とされてきましたが、“子どもから大人に伝播する”という新たなパターンが報告されています。さらに、政府の後手の対策と五輪の強行により、現在、「全国各地が災害レベルの状況」となっています。しかも保護者世代はワクチン接種が間に合っていないという問題を抱え、全員が自宅療養となった家族で 40 代の母親が亡くなった痛ましい出来事は、全国の子育て世代にとって他人事ではありません。文京区でも連日、児童・生徒、教職員の陽性者が報告され、とりわけ８月の陽性者は、前月の４倍以上にもなっています。

「このまま学校を開けて大丈夫か」「子どもが感染し親が感染することも心配」などの不安が広がる中で、区は２学期の始業を９月６日からに延期する措置をとることに至りました。

そこで、デルタ株のもとでの学校の感染対策について緊急の提案を行います。

（１）登校見合わせの選択・分散登校・オンライン授業などを柔軟に組み合わせて対応する

デルタ株の感染力の強さを考慮し、学校の状況に応じ、登校見合わせの選択・分散登校・オンライン授業などを柔軟に組み合わせて対応すべきです。文部科学省は高校にかぎって分散登校等を通知しましたが、小中学校などでも感染状況に応じて分散登校がありえることを明確にすべきです。同時に分散登校は、保護者の減収や失職、医療従事者が出勤できなくなるなどのデメリットがあります。そうしたしわ寄せが起きないよう、必要な子どもが朝から学校で学べるような対応を徹底することを求めます。

休校する際には、希望者に学校給食を提供すること。また、ＩＣＴ支援員を全小中学校に配置し、教員の負担を軽減して、教職員が感染対策の最新の到達を学び討議できる時間を保障すること。

（２）教室でのエアロゾル感染防止へ、短時間での全換気と不織布マスクを重視する

教室で子どもたちが一定時間集まって会話し、給食をとる学校では、エアロゾル感染（空気感染）に特に注意する必要があります。デルタ株は従来株の半分の時間で感染すると言われています。短時間で空気を入れ替える常時換気（４か所開けなど）と、教室で教職員も生徒もウレタン製でなく不織布のマスクをつけることが重視されます。区が不織布マスクを用意し学校、幼稚園、育成室でも使用するよう呼びかけること。また、全教室・育成室に CO2 モニターを設置すること。

（３）学校でのクラスター対策と広範な検査の実施

学校などで陽性者が出た場合は、濃厚接触者を狭くみず、実態に応じ学級・学年・学校全体など広めの PCR 検査を行政検査として行うこと。

コロナ感染は半数が無症状感染者からであり、無症状感染者の発見と保護が感染対策に欠かせません。広範な子ども・教職員に簡易検査を頻回に行うこと。

感染状況が深刻な場合は、ドイツでの例に学びながら教職員・子どもに週二回、自宅で行える迅速抗原検査を行うこと。

（４）教職員のワクチン接種について

教職員のコロナワクチン接種は、人権への配慮や個人の選択を尊重しながら、すみやかに進めること。

（５）学習指導要領を弾力化し、「災害時」にふさわしい柔軟な教育を保障する

今後の感染状況は予断を許さず、一定の臨時休校などもありえます。学習指導要領を弾力化し、限られた時間の中で、重要な核となる学習内容をじっくり学び、子どもの成長に必要な行事も行えるようにすることを、「災害時」の基本とすべきです。

（６）コロナについての学びとコミュニケーションを重視する

子どもたちは長い間我慢を強いられ、さまざまな不満を募らせています。新型コロナウイルスと感染のしくみを学びながら、「部活動もこれなら可能では」といった前向きな話し合いを行うことが、この時期に欠かせない学びです。そうした学びの保障を求めます。

教職員が世界と日本の研究成果などを学び、感染対策をふくめ討議できるゆとりを保障することを求めます。このことは、子どもや保護者がウイルスを正しく恐れることを助けることにもなります。